

1 佐久地域の発展方向

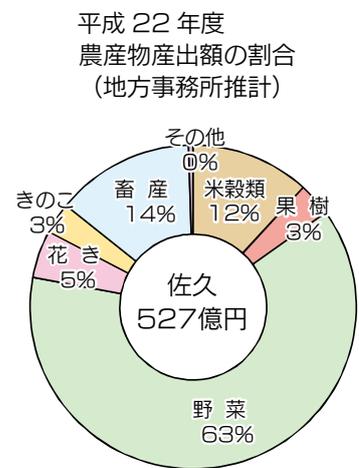
小諸市・佐久市・小海町・佐久穂町・川上村・南牧村
南相木村・北相木村・軽井沢町・御代田町・立科町

～太陽 水 大地～ 人と豊かな恵みで築く佐久の農業・農村

地域農業・農村の概要

■ 農業・農村の特色 ■

- 千曲川に沿って標高 500m から 1,500m に耕地が分布し、恵まれた自然環境の中で、八ヶ岳・浅間山麓の高原野菜、佐久平の良質米、花き、鯉や信州サーモン等の養殖、川西地区の果樹、肉用牛・養豚団地等多様な農業が営まれています。
- 新規就農者が増加傾向の一方で農業を支えてきた世代の減少・高齢化が進み、地域の多様な担い手の確保が必要となっています。
- 消費者ニーズの多様化に対応した、新たな品目・技術の導入や高付加価値化など、多角化により、農畜産物の総合供給産地として産地力強化が必要となっています。
- 自然豊かな農村での農業体験等を通じ、観光と連携して都市住民との交流を推進し、農村の活性化や遊休農地の有効利用を図る必要があります。
- 築造後長期間経過した、ため池、用排水路、かん水施設及び集出荷施設などの基幹施設の維持・修繕が必要となっています。



■ めざす将来ビジョン ■

- ほ場、水路、農道など基幹となる農業生産基盤に支えられ、立地条件や自然環境を活かした営農が展開されています。
- 大規模経営や企業的経営を行う意欲ある農業者等が中心となって、環境に配慮した農業生産を基軸に、海外も視野に入れた国内屈指の農業地帯となっています。
- 関東に近い立地条件から新規参入者も増加し、農業後継者や高齢農業者の作業を補完する組織などとともに地域の担い手が育っています。
- 地域の中心作物である野菜は、レタスやはくさいの生産量が引き続き高い全国シェアを誇り、軽量野菜や果菜類など新たな品目も導入され、高品質な野菜総合供給産地として、収益性の高い農業が展開されています。
- 県下有数の品質を誇る米を始め、果樹や花きなど、寒暖の差の大きい気象条件を活かし、市場や消費者から求められる高品質な農産物が生産され、水産物やきのこも加えた農産物が国内外から高い評価を受けています。
- 酪農や団地を形成する肉牛・養豚など畜産においては、強固な防疫体制の下、安定的に畜産物が供給され、地域内での加工品生産や耕種農家との連携による堆肥等の有機性資源の地域内循環が行われています。
- 美しい農村で生産される農産物は、家庭はもちろん地域内のレストランやホテルで利用されており、その農産物を使った特色ある加工品・伝統食が有機的に結びつき、また、「おいしい信州ふーど（風土）」が、県内外に広く知られています。
- 豊かな自然や農村の原風景と、農作業やそば打ち体験などを求めて、県外から健康長寿の里・佐久を訪れる人々が増加し、都市住民と農村との交流が進んでいます。



重点的な取組方向

重点戦略1 意欲ある経営体の確保・育成（夢のある農業を实践する経営体の育成）

全国有数の野菜産地であり、農業後継者や里親研修制度等を利用しての新規参入など、新規就農者が多い地域です。しかし、中山間地等では担い手が不足しており、市町村等関係機関や農業者等と連携して、地域に必要な担い手を確保し、育てていくことが求められています。

また、農業者の経営力向上を図り、地域農業を担う企業的な経営体の育成も必要となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
<input type="checkbox"/> 40歳未満の新規就農者数（単年度）	36人 (H20～H23の平均)	49人
<input type="checkbox"/> 農業法人数	85法人	100法人



- #### 推進方策
- 地域・市町村ごとの担い手確保計画の作成推進と支援体制づくり
 - 新規就農里親支援事業等を活用した新規就農者の確保
 - 既存の農業者組織の強化によるモデル経営農家の育成
 - 重点指導経営体を選定し、6次産業化等による企業的農業経営体へのステップアップを支援



【新規就農者の栽培技術研修】

重点戦略2 競争力と持続性の高い野菜総合供給産地づくり

八ヶ岳や浅間山麓地帯では高原野菜、佐久平の平坦地域では、ブロッコリー、ミニトマト等の軽量野菜が栽培され、全国屈指の野菜産地として発展してきました。

レタス・はくさい・キャベツ等は、新たな病害や連作障害を克服し、高品質・安定供給が図られることや、多様化する顧客ニーズに対応した、新たな品目生産等についても市場から期待されています。また、流通チャネルも増加し、海外への輸出も行われています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
<input type="checkbox"/> 実需者との連携による契約取引の拡大	35%	40%
<input type="checkbox"/> 新品目等の産地化（プラス1億円増）	-	5品目



- #### 推進方策
- 気象変動や連作等に起因する病害虫に対応できる栽培技術や適作型・適品種の導入
 - 需要期を見据えた適正生産と加工・業務用向け生産の拡大
 - 市場や実需者から要請の高い新品目、新品種導入のための現地適応試験等の実施
 - 畜産と連携した有機性資源の活用等による土づくり



【大規模な雨よけホウレンソウ栽培】

重点戦略3 伝統ある果樹・花き産地のブランド再構築 対象地域：佐久平、浅間山麓、川西、南部中山間

果樹は、ももや佐久発祥のプルーンが伝統産地として発展してきました。りんごでは、「たてしなりりんご」のブランド化や、県オリジナル品種への転換等が進められ、新しい化栽培用のフェザー苗生産も始まっています。一方、高齢化等に伴う生産性の低下や遊休化する樹園地が増加しています。

花きは、キク、カーネーションを中心に県下有数の産地ですが、生産量が減少しており、物日への確実な対応と省力化技術の導入による規模拡大等経営改善が求められています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□りんごのわい化栽培率	67%	75%
□果樹オリジナル品種等の栽培面積	51ha	90ha
□カーネーション等の秋切り出荷率	34%	40%

推進方策

- りんご園の高生産園への転換とM9自根苗の地元生産
- 県オリジナル品種等の導入及び施設化の推進
 - りんご：シナノドルチェ等の中生種
 - もも：川中島白桃等の晩生種
 - プルーン：サマーキュート（早生種）
 - オータムクイーン（晩生種）
- 果樹産地を維持・継続させるため、果樹園を円滑に維持・継承するシステムの構築
- カーネーション等の秋需要期開花技術の導入
- キク移植機の活用や無側枝性ギクによる省力栽培の拡大



【りんご新しい化栽培園】

重点戦略4 安定的農業生産を支える基盤整備 対象地域：佐久平、川西、浅間山麓、南佐久南部

昭和30年代から始まった大規模な基幹的水利施設は築造後50年を経過するものもあり、老朽化が進み維持管理に多大な労力を要するとともに、用水の安定供給に支障を来すことが懸念されることから、再整備が必要となっています。

また、高品質な野菜生産に不可欠な畑地かんがい施設については、未整備箇所があり、早急な整備が必要となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□基幹的水利施設の再整備延長	—	6.5km
□基幹的畑地かんがい施設の整備面積	1,068ha	1,500ha

推進方策

- ストックマネジメント事業等による機能診断と保全計画の策定
- 県営かんがい排水事業による基幹的水利施設の整備
- 県営畑地帯総合土地改良事業による基幹的畑地かんがい施設の整備



【川上村梓山地区の畑地かんがい施設】



重点戦略5 環境に配慮した生産技術の拡大と農村機能の維持

すばらしい自然環境を大切にしていって意識啓発と農産物の付加価値向上に資するため、環境にやさしい農業技術の普及が必要となっています。

中山間等条件不利地域では、集落機能の低下や遊休農地の増加が課題となっており、対策が必要となっています。

達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
□信州の環境にやさしい農産物認証等面積	260ha	420ha
□地域ぐるみの多面的機能支払等取組面積	2,814ha	5,650ha
□遊休農地の再生・活用面積 (H19 からの累計)	180ha	550ha

推進方策

- 米を始めとする信州の環境にやさしい農産物認証制度等を活用した栽培技術の普及推進
- エコファーマーの組織的な取組推進
- 集落の農地や農業水利施設等の維持管理に係る地域ぐるみの共同活動の推進
- 遊休農地の発生防止や解消活動の推進
- 市町村における野生鳥獣被害対策への支援



【信州の環境にやさしい農産物認証の水田】

重点戦略6 農村の活性化と食と農業への理解の推進

農作業体験や自然体験等農村の自然を求める都市住民が増加しています。

農村の活性化を図るため、このようなニーズに応える農作業体験・そば打ち体験等のメニューの充実や開催情報の発信等による都市農村交流の拡大が期待されています。

また、地域の食文化や農産物の生産活動に対する理解を広げていくことが必要となっています。

達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
□都市農村交流人口	53,904人	57,000人
□農産物直売所数	35店	38店
□「おいしい信州ふーど(風土)」SHOP(仮称)数	0店	50店

推進方策

- 農業・農村体験プログラム等の企画支援及びそれら都市農村交流情報発信の推進
- 農産物直売組織の運営能力強化の支援
- 園児から中学生まで、一貫した農業体験や学校給食等を活用した食育の推進
- 飲食業等と連携した地産地消の推進



【地域食材を使ったピザづくり体験】